



認定特定非営利活動法人
いばらき子どもの虐待防止ネットワークあい

ニュースレター 第25号

2020年1月 30日発行
電話 & FAX 029-309-7690
電子メール network-i@ams.odn.ne.jp
ホームページ <http://network-i.jp/>



—— 年頭のごあいさつ ——

理事長 坂本 博之

新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、児童虐待問題について、さまざまなご尽力をいただき、ありがとうございます。

私たちネットワークあいは、2000年10月に任意団体として発足しました。ほぼ同時期に児童虐待防止法が制定され、その後、児童虐待問題を巡っては、法制度の整備、行政の体制の整備、私たちのような民間団体との連携の深化等、その当時と比べると、様々な面で対策は進歩しつつあります。

しかし、未だに痛ましい死亡事件が報道されることが後を絶ちません。また、特に性虐待が行われた事案で、無罪判決が相次いで出されるなど、児童虐待に関する制度について、改めて見直す必要があるのではないかとと思われる点多々あります。

児童虐待問題に対処するためには、様々な立場の人が関心を持ち、協力し、見過ごされていた事例や問題に光を当てていくことは、今後ますます大切になっていくことと思います。

本年は、特に、性虐待に焦点を当てて、いろいろな側面から、講演会やシンポジウムを行っていかうと計画しております。

私たちは、今後も、様々な立場の方と連携を深めていきたいと存じます。また、一人でも多くの人たちに、児童虐待に関する知識を持って、あるいは深めて行っていただければありがたいと思います。

これからも、みなさまのご協力を得て、少しでも多くの子どもたちを助けることにつながる活動を続けていきたいと思っております。

【事業報告①】

子ども虐待防止フォーラム

『ちいさいひと』に寄り添う一子ども虐待死事件の取材から一

「フリージャーナリスト 小宮 純一氏」講演会報告

「ちいさいひと」に寄り添う一子ども虐待死事件の取材から

令和元年11月30日（土）ネットワークあい主催により、茨城大学において小宮純一先生の講演会が開催されました。

講演の内容は子どもの虐待についてで、東京目黒区で起きた結愛ちゃん事件についての話もありました。これは5歳の女の子が継父と母親から虐待を受け死亡した事件です。亡くなった時彼女は、あばら骨が浮き出るほどに痩せ、体には170箇所もの傷がありました。その後両親とも起訴され、継父は懲役13年、母親は懲役8年（控訴中）の判決がでています。

小宮先生はこの事件について被害者が二人いる、お母さん（優里被告）もまた夫である雄大被告からのDVを受けていた被害者であると話されています。確かに事件の経過について話を聞いていくと二人の年齢差による力関係や長時間にわたる説教が日常的に行われていたこと、また「太った女性は醜い。女性の食事は男性の半分がいい」との価値観を刷り込まれる等、お母さんが雄大被告にマインドコントロールされて自分で正常な判断ができなくなっていたことがわかります。

このマインドコントロールを解き、結愛ちゃんを救うために力になってくれる人が優里被告のちかくに一人もいなかったことが残念です。だれか一人でも親身になって心配してくれる人がいたら、最悪の悲劇は免れたかもしれないと思わずにはいられません。

また今回の事件でも香川県や東京の児童相談所等の対応には、もっと子どもの立場に立った支援ができなかったのかと腹立たしさを覚えます。ただ、私たちも行政任せにして何かあれば批判して終わるのではなく、子どもの命を守るために1市民の立場でできることがあるのではないのでしょうか。例えば一般の社会人の中には「虐待と思われる子どもを見つけたら通告する義務がある」ということを知らない人がいるかもしれません。そういった人たちへの啓蒙活動を通して社会全体で子どもを守るセイフティネットを構築することなどが、ネットワークあいの活動の意義と言えるのではないかと改めて感じました。

根本和子

《関貴教さん司会によるフリートークより》

【講演会後半、参加者を混ぜてのフリートークが行われました。】

子どもの虐待防止に必要なこと

- ・親に「躰」の概念を正しく教えることがたいせつ
⇒ 「躰」＝「身のこなしの美しさ」
親自身が手本を示し、子が身に付けていく（小宮氏）
- ・親の悩みにこたえていく（小宮氏）
- ・アンガーマネジメントがたいせつ
⇒ 自分のイライラの元を知ること（関氏）
- ・親が自分のやりたかったことを子に押しつけない（小宮氏）
- ・草の根レベルの子育て教育が必要（参加者）
- ・悩んでいる親御さんがつながる場が必要（参加者）
- ・親になる人や親への教育（関氏）

映画やドラマに学ぶ

昨年の小宮純一氏講演会では、後半の関貴教さんの活動報告に「施設出身者の実家を作る活動」と「里親活動」のお話がありました。これを受けて、講演会参加者からは、若い母親の中には、さまざまな理由で「実家」が無い方がいるので、自身が関わっている支援センターが「実家」的役割を果たせるようにしたい、というお話ができました。

「里親活動」については、期間が限られるものの他に、週末だけ預かる方法もあるそうで、一般社会では、あまり知られていないと感じました。そんな中、一月四日付の読売新聞に「特別養子縁組制度」一子どもを育てたい、と願うあなたに知ってほしい—という大きな広告が載り、日本でも啓発が始まった様子です。

このお正月、テレビでは綾瀬はるか主演の「義母と娘のブルース」というドラマが話題になり、ご覧になられた方も多いのではないかと思います。血がつながらなくても、お互いが大切な存在になっていくというストーリーは、人間の持つ良い所を感じられ、毎回暖かい気持ちになり、楽しみに見ました。

海外では、「インスタント・ファミリー～本当の家族を見つけました」という映画が作られています。(2018・アメリカ)こちらは、養子(3人兄弟)を引取って育てる若い夫婦の物語です。里親になるための勉強会のシーンが何度も出てきますが、シングルの女性や、ゲイの男性カップルが混じっているところは、さすがアメリカ、という感じを受けました。引き取られた子どもたちはもちろんですが、引き取った里親の方が子どもたちから豊かな人生を貰えるいると感ずることのできる映画でした。

T・S

《講演会参加者アンケートより》

- ほとんどの方から「内容に満足、今後の仕事や活動に役立ちそう」というご感想をいただきました。
- その他に、関さんの話された「実家を作る活動」に共感して、自身の仕事に取り入れていきたいという感想や、母親のサポーターを増やすことが、子どもの虐待防止のカギになるという意見等が出ました。
- 若い児童相談所職員がうつ病に患ってしまうという実態の報告に専門職の難しさを感じたという意見もありました。

【事業報告②】

「児童養護施設や里親から巣立った若者への食糧支援」

ネットワークあいでは、『フードバンク茨城』の協力を得て、2年前より、児童養護施設や里親の許を巣立ち、1人暮らしをしている18才～20代の若者に食糧を送っています。この事業の主旨は「食糧による経済支援と同時に、出身の施設・里親から食糧を届けてもらうことで、ふだんから・つながりを保ち、困った時の相談相手となってもらい、地域で親に頼れない若者を孤立させない」ということにあります。

この事業の利用施設から、次のようなメッセージを頂きました。

『看護の専門学校に進学した方にお渡ししております。家族からの援助が受けられず寮生活を送っていることもあり、食糧支援はとても助かっているとお話を受けております。今後、進学・就職等により退所を控えている児童が5名おります。食糧支援により、退所した方々と定期的にコンタクトを取るきっかけにもなり、当施設としても感謝しております。どうぞ今後ともご支援の方宜しくお願い致します。』

児童養護施設 るんびにー

【事業報告③】

「オレンジサロン交流会」の報告

1月13日に「つくばフォントレーヌの森キャンプ場」にて、オレンジサロン交流会を行いました。屋外に設置された大型テント内で鍋を囲んで、参加者は大人8名・小人7名・スタッフ6名の計21名が集まりました。お天気にも恵まれ、楽しく開催することができました。

手ぶらで行って、『鍋』ができる施設でしたが、皆食欲旺盛で大勢で、食べる楽しさもあって、予備に持参した“野菜”や“おにぎり”も完食でした。子供たちには、サービス券が貰えて、売店で買い物をするというお楽しみもありました。

水戸とつくばのサロン参加者が一緒に楽しむことのできる、良い機会となりました。

この交流会は、水戸市社会福祉協議会の歳末たすけあい募金助成事業により実施いたしました。

事務長 仲根泰子

「えだまめキッズ」のご紹介



“えだまめキッズ”ときいて、皆様は何を連想されるでしょうか？

それは、一般に言われる“ふたご”“みつご”(多胎児)ちゃん達が集う「あい」が付けた愛称です。

同じ、多胎児をもつお母さん達が、気軽に集い、多胎児を育てるなかでの苦労話や、情報交換などしてもらう為に、「あい」は、既に活動していたあるサークルから、バトンを受け取りました。

月一回、赤塚ミオスのお部屋を借りて、見守りをしています。隔月で「おとあそび」も取り入れています。ミニ知識として、日本では全国に 100 人の妊婦さんがいたら、そのうち 1 人位(約 1%)は多胎の妊婦さんです。詳しいことは、ネットなどで検索できますが、多胎児を授かったからといって、不安になったり慌てることなく、各病院でのアドバイスや、産後ケアの充実を図り、各市町村でのサポートなど、取り組まれているようです。

私自身、二人の子供を授かり、子育てを経験しましたが、一人目の時は、「この子を守るのは私しかない」と、生命を授かったことに感動こそしましたが、乳児から幼児へとその育児は、試行錯誤の日々でした。産んだから、即お母さん(母性)になっていくものではなく、悪戦苦闘しながら、育てていく中で、母性も育てられていくものだとふり返ってみて、そう思われます。一人でも大変なのに、多胎児をもつお母さんの大変さは、二倍、三倍であることは、容易に想像できますね。

専門性もない、ごく普通の主婦達ですが、同じ子育てを経験した者として、短いひと時ではありますが、日々の大変な荷を少しでもおろして、子供と一緒に笑顔で帰って下さればという願いと、“一人で悩まないでね”という内なる気持ちを持って活動しているところです。

(U. K.)

★2月15日(土)『こみっとフェスティバル』に行こう★

前号でお知らせしたとおり、来たる2月15日(土)に、イオンモール水戸内原店で「こみっとフェスティバル」(午前10時～午後4時)が開催され、いばらき子どもの虐待防止ネットワークあいも参加予定です。水戸市内のNPO法人やボランティア団体が日頃の活動紹介や展示、ステージ発表などを行います。ボランティアに関心をもったり、仲間づくりのきっかけになりますので、ぜひお越しください。

当日は、いばらき子どもの虐待防止ネットワークあいは、“物販コーナー”でバザーを行います。

家の不用品(未使用の物)があれば、ぜひご協力をお願いします。

品物はあい事務所(〒311-4143 水戸市大塚町1866-102)に郵送・又は、事前連絡のうえ、直接事務所へ持ち込みをお願いします。

バザーで得た収益金は、今後の活動に使用させていただきます。

ボランティアを募集しております！



- ★託児スタッフ
- ★事務作業
- ★ファシリテーター etc・・・

『NPO法人いばらき子どもの虐待防止ネットワークあい』の運営に少しでも…何か…ご協力いただける方がいらっしゃいましたら、ぜひ下記までご連絡ください。

心よりお待ちしております

☎ & fax 029-309-7690
mail network-i@ams.odn.ne.jp

